



# 託宣

11月8日

Sudden Fiction Project

高階經啓  
hirotakashina

最初にドアチャイムが鳴ったとき、そろそろ眠ろうかと備え付けの寝間着に着替え始めたところだった。誰だこんな時間にとは思ったものの、そんなことはおくびにも出さず、どなたですかと問うと、チェックイン後、部屋まで荷物を運んでくれたボーイである。何か手違いでもあったかとドアを開けると、何やら神妙な顔をして、ちょっとよろしいですかと言う。

話を聞き始めてようやくどういうことかわかってきた。それは彼のごく私的な相談事であった。結婚を考えている相手がいること。一方で彼の親は彼になぜか過大な期待を抱き続けていて、それに応えるべく彼は今なお資格試験を受けるための勉強の日々だということ。しかしながら自身の能力の限界を悟っており、本当はそんな試験など受けても意味がないと思い始めていることなどなど。

何だって客を捕まえてそんな話をするんだ？　と言いかけてふと思い出した。チェックインした時、職業を書く欄があってそこに冗談で「聖職者」と記入したのだった。ああそれでかと思いついて思わず吹き出しそうになった。ちょうどそのとき彼が、こんな話は地元の間人には相談できないので、こうして失礼も顧みずにお邪魔してしまいました、ホテルに知られたら首になるかも知れませんが、それも承知でご相談をお願いしにきたのです、などと言うので、柔和な笑みを浮かべて、ええちっとも構いませんともなんて心にもないことを言うてしまう。

さて、だからと言って何か気の利いた説教を垂れることができるわけではない。もっともらしいことのひとつも言ってやりたいが残念ながら何も浮かばない。だから意味ありげで意味不明なことをつぶやいてみることにする。花火は、とひとこと言い始めてからどう続けようか考える。打ち上げ花火は先に姿が見え、やがて音が聞こえます。ボーイはとても真剣な顔をして聞き入っている。目に見えた花火が花火なのか、聞こえた花火が花火なのか、どちらだと思います？

聞いたこちらが驚いてしまったのだが、ボーイはかっと目を見開き、ああそうか！と叫ぶ。こっちは、何が、ああそうか、なんだろうと内心焦りつつ、穏やかな笑みを浮かべたまま、うんうんとうなずくと、ボーイは何度もお辞儀をしながらありがとうございます、ありがとうございます、これで先に進むことができます、このお礼は必ず致しますから、などと力説しながら去っていった。

妙に緊張したのでミニバーの缶ビールを開けて、ちびちびやりながら、さていよいよ眠ろうかと思ったところでまたチャイムが鳴る。先のボーイが冷えたシャンパンを持ってきて、心ばかりのお礼です、わたしからの差し入れです、ご迷惑でなければいいのですがと大変真剣な様子なので、こんな真夜中にいい加減にしるとも言えず、ありがたく受けると返事したところ、実はと切り出すのでいやな予感がする。

ボーイの後ろから初老の女性が登場し、食品関係の責任者だと言う。ボーイの話を聞いて自分も是非一言アドバイスが欲しいのだというのである。そういうことだと思ったよ。もちろんですと招じ入れると、今度は新興宗教にはまった友人の話が始まる。ボーイがシャンパンを開け、3人に配る。なるほどなるほど、心配されるお気持ちは大変よくわかります。宗教とは、と大上段に振りかぶってから言葉を探す。卓上カレンダーを見つけて手に取り、続けた。宗教とはこのカレンダーのようなものです。

女性はぼかんとした顔をする。こっちだってそうだ。宗教がカレンダーってどういうことだ？　ももとは昨日と今日と明日くらいしかなかったんです。何月何日なんて名前はないんです。それが今日が2006年の7月1日だと言えるのはなぜだと思います？　そうすれば自分がいまどこにいるのかがわかって安心できるからです。だからほら、ごぞんじでしょう？　宗教ごとにカレンダーは、暦は違うのです。つまるところ、どのカレンダーを採用するか、そんなものです。古くから続く、たくさんの人が使っているカレンダーを使うか、誰かが最近思いついたカレンダーを使うか。

ははあ！ ボーイが嘆声を漏らす。女性も肩で息をつき、深くうなずき何か真剣に考え始める。実を言うと、なるほど、カレンダーねと話した本人も感心している。ぺこぺこお礼を言いながら2人は暇を告げる。女は滞在中の食費を全て自分がどうにかすると宣言して帰っていった。ビジネスとしての聖職者。という言葉が頭をよぎる。悪くないかもしれんな、そういうのも。おいしい思いができそうだ。

しかし午前2時にホテルのマネージャーが登場し、午前3時半に仕事を終えたばかりの売春婦が登場するにいたって、おいしい仕事のハードさを実感することになる。翌々日には訪問者の数は10人を越え、滞在中のアゴアシマクラは全て無料になったものの、ほとんど部屋を出ることができずにすでに30日を越えた。神よ、と呟いてみる。この試練はいつまで続くのです？

(「聖職者」 ordered by クラゲ-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

## 感謝の言葉と、お願い&お誘い

---

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

## 託宣[SFP0131]

<http://p.booklog.jp/book/37970>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/37970>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/37970>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.